

平成 28 年 9 月 26 日

平成 28 年度第 2 回 IR 実務担当者連絡会の開催について（第 2 報）

大学評価コンソーシアム

1. 開催の主旨

IR 実務担当者連絡会は、IR や評価など高等教育機関における現状把握・現状分析に携わる実務担当者が集い、事例紹介と議論を通じて評価および IR における実践知の整理と体系化に向けた「経験値」の積み上げを図ることをねらいとして企画しています。評価や IR 業務では、学内の核心に迫る内容であるなどの理由で取り扱いに注意しなくてはならない情報が多く、「ありのまま」の事例を報告することが難しい状況にあります。そのため、本連絡会では参加人数を限定した上で、資料を配付せずプロジェクターで示すのみの報告や、架空のデータを用いた報告も受け付けています。

本連絡会は年 4 回の開催を計画しており、第 2 回目となる今回は、鳥取大学鳥取キャンパス（鳥取県鳥取市）で開催いたします。4 件の事例報告と、それに対する質疑応答、総合討論を行います。本連絡会の特長として、質疑応答は質問・感想票を用いて行い、参加者からのすべての質問に回答できるよう、質疑応答の時間を比較的長く設定しています。これまで毎回数多くの質問が寄せられ、質疑応答で制限時間いっぱいになってしまうことが多かったことを踏まえ、これまでの連絡会で比較的多く寄せられたご質問とその回答についてはコンパクトにまとめて報告することを検討しています。

なお、本連絡会で報告された事例は、参加者だけで共有するには「勿体ない」レベルのものが多くあります。そこで、各報告者には、本連絡会での議論の結果を踏まえ、学内の事情が許す範囲で情報誌『大学評価と IR』へ投稿していただき、参加いただけなかった方を含め、我が国の評価や IR の担当者や関係者と情報を共有していけるようお願いいたします。

2. 日時・会場

平成 28 年 10 月 21 日（金） 13:00 - 16:20

鳥取大学鳥取キャンパス 広報センター（地図の 1 番）

<http://www.tottori-u.ac.jp/1797.htm>

（鳥取市湖山町南 4 丁目 101 JR 山陰線 鳥取大学前駅より徒歩 1 分程度）

3. 参加希望者のみなさま

IR（現状把握・現状分析）に興味があり大学評価や学務、経営企画等に関連する調査などに従事したことがある教職員や IR に関する実践事例などに興味がある方は以下のとおりお申し込みください。

- ・平成 28 年 9 月 27 日（火）13 時から申し込みを開始します。
- ・申し込みは大学評価コンソーシアム Web サイトからお願いします。
- ・連絡会のプログラムは平成 28 年 9 月 26 日（月）15 時ごろまでに発表予定です。

4. 定員

スタッフ込み 30 名程度

5. 参加費

徴収しません。

6. 注意

- ・「ここだけの話」的な雰囲気確保のため、**録音、撮影はご遠慮ください。**
- ・運営スタッフが録音、撮影を行いますが、録音は報告者への提供用です。撮影した画像は報告用 web ページの素材として小さくトリミングして使います。
- ・原則として要点を記したレジюмеもしくはスライド資料を配布します。

7. タイムテーブル

13:00-13:10 趣旨説明&よくある質問及び回答の説明

13:10-16:15 報告&総合討論（○：報告者）

13:10-13:27（発表時間 15 分）

「日米の大学における学生番号の管理・運用方法の違いについて」

○藤原 宏司（山形大学 学術研究院）

浅野 茂（山形大学 学術研究院）

友田 里佳（山形大学 エンrollment・マネジメント部）

概要：米国大学 IR オフィスで勤めていた報告者は日本の大学で働き始めて約 2 ヶ月が経った。実際のデータに触れてみると、日米の大学では統合型 DB の有無だけではなく、データの管理・運用方法においても、大きく異なることが分かった。本報告では、その中でも最たるものであろう「学生番号」について取り上げる。米国大学における実際の管理・運用方法を紹介しつつ、山形大学で検討している枠組みについても紹介したい。

13:27-13:44（発表時間 15 分）

「事例の文脈を理解するための観点：中途退学防止に関する IR 活動を事例として」

○橋本 智也（京都光華女子大学 EM・IR 部）

概要：IR 活動の事例は当該大学の文脈に依存する部分が多いことから、事例の知見を他の大学で応用するときには文脈の理解が重要になる。しかし、どのような方法で文脈を理解すればよいかは十分に整理されていない。そこで、本発表では中途退学防止に関する IR 活動を事例として、文脈の理解に役立つ「観点」について参加者と議論を行いたい。

13:44-13:58 (発表時間 12 分)

「小規模大学における調査・分析者育成の試み」

○白石 哲也 (清泉女子大学 情報環境センター)

概要：本報告は、IR 担当者以外の調査・分析者育成に関する取組みを報告するものである。IR が回るようになると、担当者の業務量はすぐに飽和状態となる。特に、小規模大学では組織体制が不十分であったり、担当者が一人で対応していることが多く、そのような状態になり易い。そこで、清泉女子大学では各部署において、調査・分析者を育成することで、IR 業務の負担軽減・効率化を図っている。今回、参加者とこれらの取組みをもとに、よりよい育成方法などを議論したい。

13:58-14:10 (発表時間 10 分)

「補正論文数の利用例 –客員教員の研究力評価–」

○山本 鉦 (九州工業大学 インスティテューショナル・リサーチ室)

概要：海外の研究者を客員教員として招聘する場合、大学側は適正な報酬額を提示する必要がある。しかし、その評価手法が確立されていないため、客員教員の希望と乖離することも多い。ここでは、研究分野ごとの特性を考慮した補正論文数を用い、実際に評価した事例を報告する。

14:10-14:30 休憩および質問・感想票記入

14:30-16:15 質疑応答・総合討論

・報告＋質疑応答の部に引き続いて総合討論を行います。その際、質問紙でのご質問もお受けします。

※平成 27 年度第 4 回 (平成 28 年 2 月)、平成 28 年度第 1 回 (平成 28 年 8 月) の連絡会の質疑応答・総合討論の概要は「主要な質問と回答に関するメモ」として公開していますので、参考にご覧ください。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=irue20160223> (平成 27 年度第 4 回)

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=irue20160808> (平成 28 年度第 1 回)

16:15-16:20 アンケート記入

8. スタッフ (予定)

浅野茂 (山形大)、大野賢一 (鳥取大)、小湊卓夫 (九州大)、畷田敏行 (茨城大)、関隆宏 (新潟大)、土橋慶章 (神戸大)、藤原宏司 (山形大) ほか

9. 申し込み方法

大学評価コンソーシアムの web サイト (9/27～) からお申し込みください。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php>

10. 問い合わせ先

茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門 畷田 敏行

toshiyuki.shimada.ir@vc.ibaraki.ac.jp

電話：029-228-8489

鳥取大学 大学評価室 大野 賢一

ohno@tottori-u.ac.jp

電話：0857-31-5706

1 1. 次回以降の予定

平成 28 年 12 月 13 日（火）第 3 回 IR 実務担当者連絡会 [会場：新潟大学（新潟駅前）]

平成 29 年 2 月中 第 4 回 IR 実務担当者連絡会 [会場：佐賀大学（調整中）]

1 2. 謝辞等

○ この連絡会の開催にあたり鳥取大学様には、会場のご提供などお世話になります。

○ また、IR 実務担当者連絡会の開催には、以下の資金も利用しています。

・平成 27 年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（B）

「大学の評価・IR 機能の高度化のための実践知の収集・分析とその活用に関する研究」（課題番号：15H03469、研究代表者：畷田敏行）

